

「眼瞼下垂症」騒動記

はらクリニック院長 原 徹

「げに凄まじきはテレビなり」という印象を強くした数ヶ月でした。事の発端は4月2日夜のNHKの人気情報番組「ためしてガッテン」で放映された眼瞼下垂症に関する内容でした。医学関係の情報が多ということで、必ず録画していた番組でしたが、たまたまこの回だけは録画していなかったのです。翌4月3日は、朝から待合室が只ならぬ空気がありました。前日、テレビを観て、同じ症状だから治して欲しいという患者さんがゾクゾクと来られたのです。番組を観ていなかった私は「一体、何が起きたの？」という感じでした。患者さんの言っている事をまとめると「肩こり、頭痛、不眠などは、まぶたのたるみが原因で、保険が使える手術で劇的に治る」というものでした。これは、ためしてガッテンを観なければ始まらないと思い、1週遅れの再放送を観て納得しました。

54歳の女性の患者さんが、長年、肩こり、背中のはり、頭痛、めまい、不眠などに悩まされ、いろんな病院で治療を受けたけれど治らず、信州大学医学部形成外科の松尾清教授のもとで、手術を受けたらすべての症状が短期間で消え去ったというものでした。そして、すべての症状の原因がまぶたのたるみにあるということです。同じ手術は、私自身かなりの症例をやっていたのですが、症状の改善までは心が及ばず、同じ形成外科医として改めて松尾教授のすごさが分かりました。

まぶたのたるみが頭痛、肩こり、腰痛を引き起こす理由としては、まぶたがたるんでくると、まぶたを持ち上げる筋肉を強く緊張させることとなります。ところが、実はまぶたを持ち上げる筋肉には、頭部の筋肉と連動する仕組みが備わっています。そのため、まぶたを持ち上げる筋肉が強く緊張すると、反射により、額の筋肉、頭の筋肉も連動して緊張するのです。さらに、頭の筋肉の緊張が強いと、それを助けるために首から肩にかけての筋肉まで緊張します。この状態が長く続くと、首が前方に出て、猫背気味になります。このようにして、まぶたのたるみが、頭痛、肩こり、腰痛にまで影響するというのです。

まぶたを持ち上げる筋肉「ミュラー筋」は、目を開いている時に働き、閉じている時には休みます。このミュラー筋と連動しているのが実は自律神経です。ミュラー筋が働いている時、自律神経は、「活動的」なONの状態です。ミュラー筋が休んでいる時、自律神経は「リラックス」のOFFの状態になります。ところが、まぶたの皮膚がたるむと、ミュラー筋は目を開けるために過緊張の状態となり、眠ろうとして目を閉じてても、ミュラー筋はまだ働いていて、自律神経はONの状態のままですから、不眠の状態が起きるのです。そして、自律神経がOFFにならない状態が続くと、慢性疲労や不安、うつなどの症状が起きてしまうのです。そのため、まぶたのたるみが原因で、生活に支障をきたすような場合は「眼瞼下垂症」と診断され、保険適用の手術が行われます。

当院でも、かなりの患者さんが手術を終え、著しい症状の改善を見えています。心も体もリフレッシュした患者さんの笑顔を見るたびに、松尾教授に感謝、感謝。